

文字を使ったコミュニケーションの特徴

仕事だけでなく日常でも、顔の見えない相手と文字を使ってやりとりする機会が増えました。子どもたちの間でも、SNSや無料通話アプリを使ったやりとりは日常的なものになっています。

しかし、文字によるコミュニケーションでは、トラブルが起きやすいのも事実。トラブルにならないためにはきちんと特徴を押さえておく必要があります。

文字だと正確な情報伝達が可能

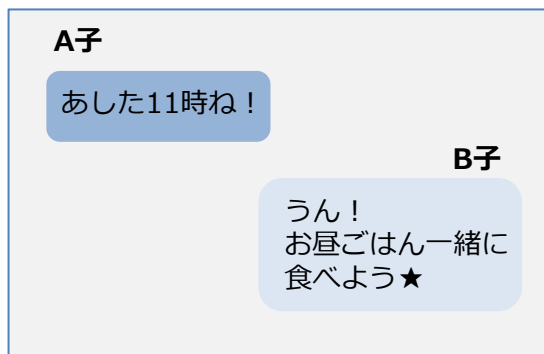
文字によるやりとりが会話より優れている点は、正確な情報伝達が可能なことです。

例えば11時（じゅういちじ）と17時（じゅうしちじ）。言葉にすると聞き間違えがおきやすいものですが、文字にすると正確に伝えることができます。

<対面の場合>

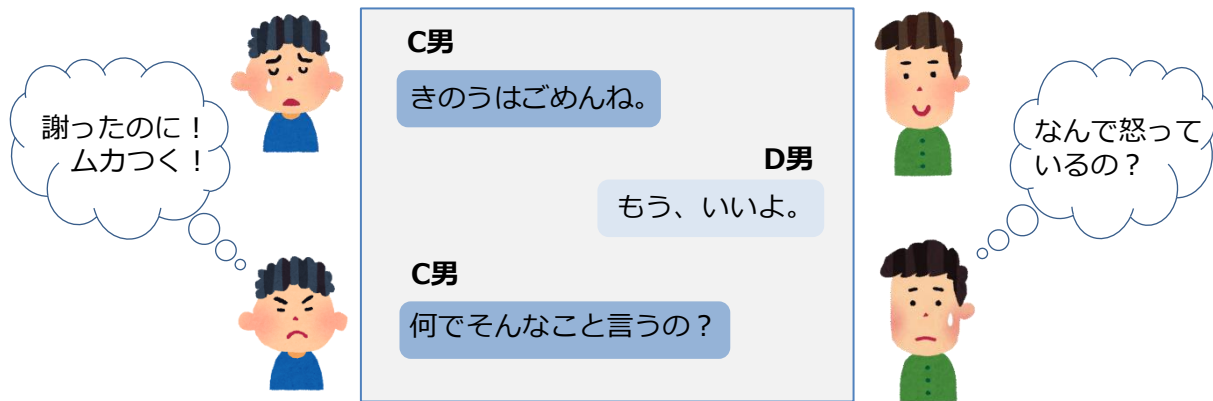


<文字の場合>



文字で気持ちを伝えるのは難しい

しかし、気持ちが伝わりにくいという欠点もあります。文字によるやりとりには、顔の表情や声の調子などの情報が無いため、微妙なニュアンスが伝わりにくく、誤解を招いてしまうことがあるのです。



このやりとりでは、D男は「もう、気にしないでいいよ」というつもりで「もう、いいよ」と言ったのですが、C男はつき放されたように感じ、怒ってしまいました。

文字のやりとりは正確な情報伝達が可能な反面、気持ちを伝えるのが難しいものです。インターネットでやりとりする際は、そうしたことを押さえておく必要があります。